

当院の現状と今後の方針について

令和8年2月10日
国立病院機構小諸高原病院
院長 村杉 謙次

平素より当院の運営に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。昨年の本会議において、主に医師数減少に伴う当院の診療機能の縮小について、報告させていただきました。当院の精神科1ヶ病棟の休棟や外来診療における新患の受け入れ一時停止等により、皆様には多大なご迷惑とご負担をおかけすることとなり、大変申し訳ございませんでした。その後、医師数や診療機能が回復してきている状況もございますので、この場をお借りして、当院の現状と今後の方針についてご報告いたします。

【病棟再編について】

- 長期入院を必要とする患者数↓、精神科急性期医療のニード↑を踏まえ、病院の小規模化・高機能化に向け、慢性期開放病棟60床の廃止、病棟新築・改修工事も含めた計画を立案し、令和5年4月より着工。令和6年11月より2階建て新病棟（1階：重症心身障害児者60床、2階：精神科急性期50床）の稼働を開始した。
- 医師数の減少（期間医含む常勤医：令和3年15名→令和7年4月8名）に伴い、将来的に改修後の児童思春期病棟への転換を検討していた慢性期閉鎖病棟42床を、令和7年3月末を以て前倒しで休棟とした。
- さらに令和7年度中に2名の医師の退職も予定されていたため、認知症病棟50床の休棟も視野に入れていたが、2名の医師確保の見込みがたったこと、看護師含め医師以外の多職種は維持できていること、そして当院に求められる機能と地域の精神科病床数確保を念頭に、引き続き認知症等の高齢者を対象とした精神科病床として運用することとした。
- 加えて、令和7年3月末で休棟した閉鎖病棟42床を、病床数適正化支援事業による病床返還も経て、最小限の改修を行った上で児童思春期病棟20床として令和7年10月より開棟。あわせて児童思春期精神科医療への従事希望の医師1名を確保することができ、期間医含む常勤医数は令和8年2月現在で9名となり、以下の病棟編成となっている。

病棟名	運営病床数	役割・機能
2上病棟	20床	児童思春期（発達障害、摂食障害、被虐待等）
2下病棟	48床	亜急性期（疾患問わず重度かつ慢性患者）
3病棟	60床	重症心身障害（動く重心、強度行動障害）
5病棟	50床	精神科急性期（措置入院、精神科救急、鑑定等）
6病棟	50床	認知症含む高齢者（BPSD、慢性期統合失調症等）
8病棟	17床	医療観察法（心神喪失等による重大な他害行為）
計	245床	

【外来診療等】

- 児童思春期症例と入院を必要とする症例以外の新患の受け入れを一時停止していたが、令和7年5月より上記症例に加え、行動・心理症状の顕著な認知症や、治療抵抗性の統合失調症や気分障害、妊娠中および産後の女性のメンタルヘルス不調等、専門医の診断や治療が必要な症例を中心に、新患受け入れを再開することし、関係機関向けに文書を発出。徐々に新患数は戻りつつある。
- 医師、特に精神保健指定医の不足もあり、長野県東北信地域の精神科救急輪番の担当日数を、令和7年度より11日/月⇒9日/月に減らしていただいた上で、輪番機能を維持。

【今後の方針】

	課題・役割	方針
精神科急性期	<ul style="list-style-type: none"> • 急性期病棟の機能維持・向上 • 自傷殺・他害の予防と対応 • 精神科救急体制への協力 	<ul style="list-style-type: none"> • 精神科救急急性期入院料の取得 • ゲートキーパー養成支援 • 救急輪番日数の回復（10日/月）
児童思春期等	<ul style="list-style-type: none"> • 児童思春期専門病棟の機能・実績↑ • こども・若年の自殺予防 • 重度摂食障害への対応 • 周産期・産褥期女性のメンタルヘルス 	<ul style="list-style-type: none"> • 児童思春期精神科入院医療管理料・児童思春期支援指導加算の取得、外来多職種診療体制↑ • 小諸市こども計画への参画 • こどもの自殺危機対応チームへの参加 • 児童相談所との連携継続・強化 • 摂食障害連携病院としての手上げ • 女性メンタルヘルス外来の設置
老年期	<ul style="list-style-type: none"> • 認知症のBPSDへの対応 • 高齢者のうつ病・身体合併症対応 	<ul style="list-style-type: none"> • 小諸市認知症初期対応チームへの参加 • 総合病院・かかりつけ医・施設との連携強化
セーフティネット系	<ul style="list-style-type: none"> • 医療観察法病棟の機能維持・向上 • 重心病棟の機能維持・向上 	<ul style="list-style-type: none"> • 他院からの治療困難事例の転院受け入れ • 一般病棟でのSSの受け入れ、小児科医の確保
その他	<ul style="list-style-type: none"> • 専門性の高い高規格の医療 • 人材育成 • 災害対応 	<ul style="list-style-type: none"> • クロザピン使用症例↑、mECT体制の整備 • 教育・研修・臨床研究の維持 • DPAT先遣隊の整備

精神科医の確保は全国的に厳しく、精神科医療機関の運営も依然として厳しい状況が続いておりますが、当院におきましては、地域医療に貢献するため、引き続き可能な限り、診療機能の維持・向上や医師確保に向けた努力は続けていく所存でございます。

今後ご迷惑をお掛けすることもあるかと存じますが、何卒、よろしくお願い申し上げます。